

開催地名：茨城県境町	
開催日時	令和元年 11 月 19 日（火） 13：30 ～ 15：00
開催場所	境町中央公民館
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	小学生（6 学年）、同保護者及び教職員 約 240 名
開催経緯	<p>境町は利根川左岸に面しており、万が一越水や破堤があった場合、境町の面積の約 90%が浸水域にあるため、町民のほとんどが町外への避難（広域避難）対象となる。また、水防法の改正に伴い、各学校を含む各要配慮者施設等において、逐次避難確保計画を策定しているが、その際の生徒、家族及び教職員の避難の実効性について、課題（避難の時期、手段、避難先等）が多いと認識している。そこで本講演会では、災害の体験談や教訓等に関することと、学校施設における避難誘導（生徒に対する防災訓練又は教育）についてお話を伺い、今後の防災意識の普及のきっかけとしたい。</p>
内容	<p>（1）東日本大震災</p> <p>自宅にいた時に突然大きな揺れを感じた。震度 6 強の地震が幾度となく続く中、大地の下から得体の知れない大きな音がした。住んでいたマンションは完全に壊れて、住民達は泣き叫んでいた。このまま死んでしまうのではないかと思った。水道管が破裂して水が滝のように流れていた。電線は道路に垂れ下がり火花を散らし、どうにもならない状態だった。津波が来ると思い、住民を避難所に誘導した。</p> <p>地震の規模はマグニチュード 9 で、岩手県から茨城県まで縦 500 キロメートル、横 200 キロメートルの岩盤が 6,500 メートルの海底に沈み、30 メートル超の津波が襲った。東日本大震災は、まさに 1,000 年に一度の大地震であった。避難所では中にいる人だけでなく、避難所の近くで車で避難している人も含めて掌握した。全員に食事が行き渡るようにした。</p> <p>（2）避難所について</p> <p>自然災害には、地震・津波・豪雨・洪水・山崩れ・地滑り・高潮・豪雪・噴火などがある。急激な自然環境の変化に、人間社会の対応が間に合わない場合がある。今、一番心配されているのが首都直下型地震であり、特に千葉県と埼玉県の県境が危険地帯とされている。</p> <p>また、最近ではゲリラ豪雨による水害が多く、の場所で起きている。巨大な雲が空を覆い、ものすごい量の雨を降らす。豪雨が続くと堤防が決壊し、洪水になる。この地域にある利根川は日本で一番水量が多い川なので、氾濫すると大変なことになる。</p>

境町には、洪水の時等に、200人が避難できる、日本に一つしかないタワーがある。そのタワーと町役場の建物の3階は渡り廊下でつながっている。町役場の建物には800人が避難できるため、タワーと合わせて合計1,000人が避難できることを覚えてほしい。

(3) 避難について

大きな地震が起きる前には、必ず震度4程度の地震が2、3回起きる。その後大きな地震が起こる可能性があるため、逃げる準備をしておいた方がよい。とにかく急いで避難することが重要であり、家族が家にいる時は声を掛け合い、安否確認をするとともに、外出中は戻るのを待つことなく、自分一人でも逃げることに。

地震発生時には、上から色々なものが落ちてくる。冷蔵庫、テレビなども家中で移動してしまう。スーパーでもらうビニール袋など身近にあるものを使って、必ず首を守ることが大切である。外に出た時、ブロック塀は倒れる危険があるため、絶対そばに行ってはならない。自分で自分の身を守るための行動が大切だ。

(4) 防災会議について

災害が起きた時、家族が一緒にいるとは限らない。災害が起きた時、家族がそれぞれ別の場所にいる、ばらばらに逃げたとしても、落ち合う場所を決めておけば安心であるため、お父さんやお母さん、家族と災害についての打ち合わせをしてほしい。逃げる時には、懐中電灯、携帯ラジオ、スマートフォン（携帯電話）、いつも飲んでいる薬を持っていくようにしてほしい。避難所では、携帯ラジオが活躍するため、日頃から枕元に用意しておくといい。

学校で先生や友達とハザードマップを作ってみることもお勧めしたい。一人ひとりが自然災害対応の主役となって、自分の町を守ってほしい。



開催地より

東日本大震災の体験談や、災害に対する備えについて、とても分かりやすくお話しいただいた。それぞれが災害に対する危機意識を持ってもらえたと思う。